

日本語の婉曲表現における断りについての考察

——語用論の視点から¹

馮晶・徐千恵

要旨：本研究は、八つの日本現代都市ドラマを言語資料として、断りに関する場面を 165 例ぐらい集め、ミニコーパスを作ることによって、日本語の断り表現の実態を研究するものである。小論は婉曲表現からスタートし、抽出したデータを語用論の理論に基づいて、分類・分析をした。どんな間柄に対しても、婉曲表現、つまり間接的な断り表現が極めて多いということが分かった。最後に、言語表現の裏に潜んでいる文化的な要因も探求してみた。

キーワード：婉曲表現 断り表現 コーパス 語用論 文化的要因

1. はじめに

婉曲表現は日本人の日常会話の中によく見られる言語現象で、日本語の著しい特性とされている。人々が社会生活の中で、スムーズにコミュニケーションをするために創造した適切な表現形式の一つである。人との交流の中で、相手のメンツ、感情などを損ねないように重要な役割を果たしている交際策略と言える。また、断り表現は日本語の婉曲表現の重要な部分で、人間関係を円滑に保つ上手な断り方は日本人としての必修科目と言えよう。したがって、断り表現の研究は婉曲表現研究において不可欠だ。それを突き止め、中国人の日本語教育にも少しでも貢献すれば幸いだと思う。

2. 先行研究、研究目的と方法

婉曲表現について、金田一春彦先生 (1975) は「直接的に、また露骨に言うのを避けて、遠回しに表現すること」²と定義している。徐(2003)は、婉曲表現は人とのトラブルを避けるため、角が立つような言いまわしから角が立たないような言い回しへの言い換えと、确实である事柄を确实でないように表現する表現のしかただと述べている。

婉曲表現の機能について、角谷(1996)は、単一民族の日本語コミュニケーションは、おのずと「言わなくてもわかる」、「以心伝心」的なものとなり、同じコンテキストから安心感を求め

¹ 本論文が山东省社会科学规划项目(13CWJ27)“ARCS 模式下的外语学习动机研究”の阶段性成果。作者单位为山东财经大学外国语学院。

² 金田一春彦 (1975) 『国語学大辞典』 p.264

るのであると論じている。板谷(1996)は婉曲表現の役割が「社会において人間関係を円滑に行う」と述べている。徐(2003)によれば、「率直な直接表現に比べると、遠回しな間接表現が人に婉曲、愉快的な感じを与え、受け入れやすくなる。日本人は婉曲的な間接表現のような曖昧なことが好きで、これを教養としている。」と論じて、婉曲的な言葉遣いを取るのは日本人としての常識と示している。

婉曲表現の成立条件について、仁田(1992)は、「①話し手は言表事態の成立が真であると認識している、②言表事態の成立がまだ確認されていないところを有するものとして表現されている」とまとめている。田中(1988)は、「言う方は遠回し言い、言われた方は(あるいは言われなくとも)その真意を察するというコミュニケーションの形は、日本人の日常にはよくあることである。」と述べている。聞き手中心の意を示している。

「断り表現」について、本稿では尾崎(2006)の相手からの「期待や好意に添えないことを伝える言語行動」という定義を取ろうと思う。また、Beebe(1990)の観点では、断り表現は「直接的な断り表現」と「間接的な断り表現」といった2つの大きな種類に分けている。さらに、蘇(2009)がBeebeの理論を再修正して直接的な断り表現を「不可」と「意志・能力の不可」、間接的な断り表現を「回避」、「弁明」、「責任転嫁」などに詳しく分類している。間接的な断り表現は婉曲的な断りと言い、婉曲表現に属しているとされている。

婉曲表現と断り表現についての先行研究は数が少ないが、ほとんど別々の言語現象として研究したものである。両方を結びつけた研究が多く見られていない。先行研究に導かれつつ、語用論の礼節原則と会話の公理に基づき、婉曲表現における断り表現、さらに日本人の心理特徴をめぐる考察を試してみるのとは本稿の新味であろう。

3. データの抽出と分析

3.1 調査データ

よく知られている日本語研究用の書き言葉コーパスといえば、「朝日新聞オンライン記事データベース」や「現代日本語書き言葉均衡言語資料」がある。しかし、本稿は話し言葉を研究対象にしたいため、その二つのコーパスを使用できない。そのため、日本語の婉曲表現における断り表現の使用実態を把握するために、本研究では日本現代都市ドラマのせりふを言語資料にし、断りの場面を一つ一つ記録し、分析していく。

「私が恋愛できない理由」(1話から8話まで19例)

「東京ラブストーリー」(1話から8話まで17例)

「昼顔」(1話から8話まで23例)

「デート、恋愛とはどんなものかしら」(1話から8話まで31例)

「ラストシンデレラ」 (1話から8話まで21例)

「結婚しない」 (1話から8話まで18例)

「アテンションプリーズ」 (1話から8話まで16例)

「リッチマンとプアウーマン」 (1話から8話まで20例)

普通に暮らしている人間の日常生活を中心に描いたのはこの8つのテレビドラマの共通点である。ドラマの社会背景も実際の生活に近いし、それぞれ日本で高い視聴率を記録した。そのゆえ、八つのドラマを基に、コーパスを作り、自然言語に近い日本人の断り表現とその裏に潜んでいる日本人の心理特徴を研究するデータを提供できると思う。

3.2 データから見る全体像

断り表現が出た場面を調べたところ、計165例を抽出できた。発話者の間柄と身分などの社会的な要素を総合的に考慮し、人の親疎関係を以下の6種類に分類した。

ア家族同士、イ夫婦・恋人、ウ親しい友人同士、エ知り合い、オ仕事の相手、カ初対面の人そして、本稿では Beebe と蘇の分類方法を参考して、研究を行うことにする。断り表現の全体的な特徴をつかむために、調査結果から得たデータの全体像を示したい。以下の表は8つのドラマの中で出た断り表現の様相を示すものである。

人物関係 断り表現の分類		家族 同士	夫婦・ 恋人	親しい友 人同士	知り 合い	仕事の 相手	初対面 の人	総計 (165例)	
直接的 な断り 表現 (14.6 %)	不可	5例	3例	4例	1例	0例	0例	13例 (7.9%)	
	意志・能力 の不可	2例	4例	3例	0例	2例	0例	11例 (6.7%)	
間接的 な断り 表現 (85.4 %)	回避 (68 例)	残念・ 詫び	3例	5例	5例	3例	2例	1例	30例 (18.2%)
		共感	5例	7例	6例	2例	0例	1例	21例 (12.7%)
		延期	3例	2例	2例	1例	0例	0例	8例 (4.8%)

	間 を 持 た せ る	1例	0例	2例	3例	2例	1例	9例 (5.5%)
弁 明 (47 例)	願 望	4例	5例	2例	1例	0例	0例	12例 (7.3%)
	決 定	2例	1例	0例	0例	0例	0例	3例 (1.8%)
	能 力 表 明	6例	3例	1例	0例	1例	0例	11例 (6.7%)
	相 手 を 安 心 さ せ る	4例	4例	2例	5例	3例	3例	21例 (12.7%)
責 任 転 嫁 (26 例)	逆 要 求	5例	2例	1例	0例	0例	0例	8例 (4.8%)
	反 問	8例	3例	2例	0例	0例	0例	13例 (7.9%)
	批 判	2例	3例	0例	0例	0例	0例	5例 (3%)

図表の全体を見ていくと、

(1) 直接的な断り表現は14.6%程度しか占めていない。家族同士、恋人関係及び親しい友人関係のみに使われる。はっきり「不可」と言うケースは仕事の同僚関係と初対面では一例も見られていないことが分かった。「意志・能力の不可」は知り合いと初対面の人には使われていない。

(2) 直接的な断り表現より、間接的な断り表現いわゆる婉曲拒絶のほうがはるかに多いことが明らかである。165例の中の85.4%を占めている。直接な理由を言うよりぼかした言い訳を

したり、適当なうそをついたりして、柔らかく断りの意を表すのが好まれる傾向が考察できる。

(3)「残念・詫び」、「共感」と「相手を安心させる」などの断り表現が非常に多い。それぞれ 30 例、21 例、21 例も考察した。それらの三種類を合わせると、全体の 43.6%まで占める。つまり、日本語の婉曲的な断り表現は形から見ると、強い「定型性」を現している。

(4) 間接的な断り表現における「回避型」が 68 例、41.2%まで達しており、圧倒的な多数を占める。意外なことに、家族同士、夫婦関係と親しい友人同士にも頻繁に使われている。などがわかった。

4. 断り表現の語用論分析

4.1 断り表現の語用論根拠

語用論 (Pragmatics) とは、理論言語学の 1 つの分野で、言語表現とそれを用いる使用者との関係などを研究する分野である。運用論ともいう。また、Morris (1938) によれば、語用論は記号 (言語) とその使用者との関係の学である。

(1) 「礼節の原則」

本研究は語用論の分野で、まず Leech (1983) が提出した「礼節 (Politeness) の原則」(気配り・寛大・同意・同情・称賛・謙遜) という理論を基に、日本語の婉曲表現における断り表現をめぐって探りたい。調査結果によると、日本人は他人の請求などを断るとき、「気配り」「同意」と「同情」などの原則の多用が見られる。「礼節の原則」にふさわしいとかがえる。

(2) 「関連性の公理」

さらに、田中 (1988) 「時には、言われたこととは反対の意味を汲み取るべきこともある」と指摘した。同じ表現でも、人によって、理解が異なる。お互いの意志が通じ合えない、つまり交際失敗のケースが少なくないという論点を提出した。そのため、グライス (H.P. Grice) の四つの「会話の公理」(量の公理・質の公理・関連性の公理・様態の公理) をも考慮に入れなければならない。その四公理は会話がいかに効率よく、また円滑に行われることを目指しているかという観点から提出されるのである。特に関連性の公理 (関連性のあることを話題とする) に合うというルールが婉曲的な断り表現に大きな役割を果たしている。発話者の話しには関連性がないと、相手は想像がつかないだろう。例えば、

女性: 「ねえ、ショッピング行きたいな。」

男性: 「金あるのかよ。」

男性の返事は直接ショッピングに行きたいことの答えではない。しかし、女性は男性の返事から「お金がないから、ショッピングには行けない」こと、つまり男性の断りの意を理解できる。仮に女性は「お金」と「ショッピング」のつながりを覚えられないと、今度のコミュニケ

ーションを失敗に導くに違いない。

4.2 調査データの語用分析

(1) 礼節の原則による分析

調査データから見ると、8つのドラマの断り表現において、Leechの礼節原則が目立つことが明らかになった。その中、「同意」と「同情」の原則の多用性が見られる。

「私が恋愛できない理由」というドラマの中で、山本さんが半沢さんを一緒に飲みに行くと誘ったとき、

山本：「よかったら、飲みに行かない？」

半沢：「あのう、ごめんなさい、今日はちょっと…」

この会話から見れば、半沢さんが直接に拒絶したのではなく、婉曲的に自分の都合が悪くて行くことができないと山本さんに伝えた。その上、自分の謝りの気持ちも相手に伝えた。そして、相手の利益を最大化し、損失を最小化した。すなわち、気配りの原則の働きである。

「ラストシンデレラ」の中で、

立花：「じゃ、俺も手伝おうか」

遠山：「大丈夫、私自分でもできるよ。」

これも Leech の理論の実例である。この答えは相手の立花さんに安心させるために、自分の能力を表した。それで自分の意思をちゃんと相手に伝えた。その上、他人の感情を損ねないで、相手に対する思いやりがある。これらの例は日本人の言語的婉曲性と心理的曖昧さを表している。たとえば、

例のこと検討させていただきます。

考えておきましょう。

いずれ相談いたしましてから。

字面からみると、こちらが検討してから返事しますよというイメージがするだろう。しかし、察しがいい日本人にしてみれば、それがただの建前で、もう諦めたほうがいと理解するにちがいない。

(2) 関連性の公理による分析

かつて、松尾捨治郎先生は「省略は日本語の三つの特徴の一つ」と指摘した。いわゆる少量の情報によって多くの内容を伝えてあげることも日本語の特性である。グライス (H. P. Grice) の会話の四公理で考察すると、関連性の公理にふさわしいと考えられている。日常生活では言葉をもっと簡潔、簡単にするため、その場にいる「話し手」や「聞き手」が両方とも共有している部分を省略する場合はよくある。

「リッチマンとプアウーマン」の中で、朝比奈さんが夏井さんを誘ったとき、

朝比奈：「映画を見に行かない？」

夏井：「レポートが遅れているし、試験も近づいている…」

答える文を見ると、直接に自分が行くか、行かないかをはっきり言わなくて、省略されたのである。本人の客観的な状況を言い出して、相手の気づきを求める。そのような会話なら、多くの外国人には分からないと思う。しかし、普通の日本人は相手の意図をよく理解できる。「文が短ければ、話が少なければよい」というのが常識で、省略表現は日本人に愛されるからである。そのため、日本語には大量な省略表現があっても珍しくもない。日本人にとっては、何もかもすべて言葉にするのが教養のないしぐさであり、聞き手に対して敬意もない行為である。したがって、話しをするときに日本人は常に省略表現を使い、曖昧さを通じて、言葉の本当の意味を伝えるのである。そして、そのはっきりしていない方式で相手の理解や答えを期待している。言い出さなかった本音は聞き手の察しに頼っている。空気を読めないと、双方が勘違いして、交際に悪影響を及ぼす。外国人によく文句を言われるが、「関連性」という公理に合うに決まっている。

5. 断り表現から見る日本人の心理特徴

文化はその民族の地理、歴史、宗教などから生まれ、思考様式を決めるものである。それに、言語上の表現はそれなりの心理特徴の表れと言えよう。そのため、言語はただの道具ではなく、人々の間でコミュニケーションの役割を演じている大切な魂のあるものである。

5.1 風土から生まれる民族の思考様式——一体性³

かつて、野元菊雄先生は日本はほとんど一言語、一民族で、世界で珍しい国だと述べた。金田一先生も「日本は日本語を話す日本民族だけから成っている国家だ」と指摘した。日本は海に囲まれている島国なので、大陸から離れ、単一民族と単一文化が生まれる。台風、地震と津波などの自然災害が頻繁で、自然資源も非常に欠乏だとされている。そういうわけで、日本人が「一丸」となり、日本民族の一体性が決められる。一体性は、厳密な等級制度、厳格なルール、絶対の服従や民族間の対抗回避などに強くつながっているのである。言語上の表現において、客観的で人が引き受けやすいような言い方を多く取るのも一体性の表しと思っている。

言語とその思考様式は密接な関係にある。日本人は本民族の調和を守るために、一体性を破らないように、自分を我慢して、本当の意思をはっきりと口に出さないで、遠回しに婉曲的な言い方を選ぶのは事実である。日本は人間関係、文化、宗教、政治と経済活動などすべての面で「和」を基準にして、周囲との調和を求めている。そうすると、国が1つの「共同体」とな

³ 周小臣・周永利 (2005) 「从思维方式看日语的主客观性」『西安外国语学院学报』3:30-34

っている。この「共同体」の中で、人々が相手との関係を大切にし、「以心伝心」を追求し、中国語の「抱团」（目的を同じくする多くの者が一つにまとまること）で表すように、その団体の一体性をしっかり守っている。そのため、他人の命令、請求などを拒絶しようとするとき、絶対に直接に言わず、相手との関係を破らないように、できるだけ間接に自分の意思を相手に伝える。

5.2 「枠」を超えないように-「格」意識

データから見ると、日本語の断り表現には著しい「定型性」があることがあきらかになった。沢木・杉戸（1999）は「ある場面ごとに、この場面ではこの言い方がもっとも一般的で普通だ⁴」と述べて、言葉の形についての「定型性」を提出した。日本語会話を特徴づけるものとして、きまり文句が非常に多く、頻繁に使われている。

馮・周(2014)は日本文化を「格文化⁵」と定義づけてみた。格という言葉は「資格」・「枠」の意味を指す。周知のように、厳密な等級制度があることは日本社会の特性の一つといわれている。上の命令を必ず従うことは日本人の原則と考えられる。目上の人、同僚、目下の人など、相手の身分と社会地位を十分に考慮し、適当な言い方と断り表現を確定する。人と会話するとき、このような話しを言う「資格」を持つか、持たないかをよく考えてから、自分の身分にふさわしい言葉遣いをする。日本社会の中で、人々は一体的な思考様式のもとでそれぞれの本分をつかさどっている。それも組織と組織、組織と個人、個人と個人の「格」関係を規範することができる。人と付き合うとき、まず自分は誰か、すなわち客観的な自我定格をしなければならぬ。また、川崎（1989）は「しきたりの美を重んじる文化であるとともに、決まっていることの枠の中での安心感が好まれる」と指摘した。日常生活において、人々は自分自身の役を決めて、こつこつと努力し、自分のやるべきことをしっかりやりきる。言語上には日本人は直接的な断り表現を避け、遠回しで婉曲的な言い方を採り出し、人とのコミュニケーションをスムーズにはかどろろとしている。「枠」すなわち「格」を超えないことは日本人の行為基準となっている。

5.3 相手を傷つけないように-聞き手責任

本稿で統計したデータによれば、婉曲的な断り表現には言いづらいところを省き、聞き手の察しに任ずというケースが極めて多い。省略は日本語の特徴付けるものといわれる。言語は情報を伝達するためにあると考えている人が多いようだが、実は何の具体的な情報も伝えず、ただ互いの心の通じ合いのためにだけ使われるということを知っておく必要がある。このような意味のない「ことばのやりとり」が、円滑な人間関係を維持するために非常に重要な役割を果た

⁴ 沢木幹栄・杉戸清樹（1999）「世界のあいさつ言葉の対照研究に向けて」『国文学』5:126

⁵ 馮晶・周永利（2014）「解析日本“格文化”」『日本問題研究』1:29-33

しているのである。

日本民族は敏感で傷つきやすい気質もちだから、言葉への感受性も強くないといわれている。したがって、相手に不快をさせない、人を傷つけないように、日本人は直接的な言い方を避け、省略や婉曲な表現を好む。言いつらいことを言わずに、目配せすれば、その意味を相手に理解させる。加藤(2007)が「仲間うちで、以心伝心的傾向が強い」と指摘して、「意思が通じるのが一番理想的⁶」という論点を出した。しかしながら、通じるかどうかは聞き手のセンスに決められると考えられている。話し手の意図がどれぐらい捉まれるかは聞き手の「勘」次第である。一旦勘違いによるトラブルがあったとすれば、聞き手は「未熟」、「常識がない」と非難される。間接的な断りの基盤は話し手と聞き手には共感があるというものである。表から見ると、これが聞き手優先のようだが、実は聞き手責任型となる。

6. おわりに

本研究はコーパス研究方法を手段として、日本語の断り表現を中心に、断り表現の特性と日本人の心理特徴を考察してみた。高い視聴率を記録した8つの日本現代都市ドラマの会話資料を記録し分類した。また、言語と文化を総合的に考慮して、抽出したデータを分析した。間接的な断り表現が多用されることが分かった。そして、語用論の礼節原理と会話の公理を基にその合理性を確かめた。そして、日本人の婉曲表現における断り表現を通じて、日本民族の一体性、「格」意識と察しの心理を観察することができたと思う。

なお、以上の結果はドラマの台詞を資料として研究し得られたものであり、実際に使用される言葉ではない。また、データの不足や場面の特定性などの欠点があるので、本論文にしては結果はまだ十分なものとは言えない。中国ではそれに関する資料が少ないため、必ずしも十分な研究が行えず、今後の課題として、語用論の面でさらに研究しようと思う。

参考文献

- 野元菊雄(1978)『日本人と日本語』東京：筑摩書房
金田一春彦(1982)「NHK市民大学業書10 日本語の特質」『日本放送出版協会』
Leech, G. N. (1983) 『Principles of pragmatics. Longman』 London & New York: Longman Group Ltd
田中春(1988)『現代言語学事典』成美堂
森山卓郎(1990)「『断り』の方略——対人関係調整とコミュニケーション」『言語』19-8: 59-66

⁶ 加藤周一(2007)『日本文化における時間と空間』岩波書店 p. 166

- 仁田義雄 (1992) 「判断から発話の伝達へ——伝聞・婉曲の表現を中心に」『日本語教育』
- 角谷智子 (1996) 「異文化間理解における日本人——日本人のコミュニケーションパターン」『日本語・日本文化』22 : 73-180
- 高木美嘉 (2003) 「依頼に対する「承諾」と「断り」の方法」『日本語教育研究』
- 施信余 (2005) 「依頼に対する「断り」の言語行動について——日本人と台湾人の大学生の比較」『早稲田大学日本語教育研究』
- 肖志. 陳月吾 (2008) 「依頼に対する断り表現の中日対照研究」『福井工業大学研究紀要』
- 伍铁平 (1991) 『模糊语言学』北京：光明日报出版社
- 徐昌华. 李奇楠 (2001) 『现代日语间接言语行为详解』北京：北京大学出版社
- 徐萍飞 (2003) 「关于委婉表现」『当代日本语学研究』(论文集)
- 土居健郎 (2006) 『日本人的心理结构』北京：商务出版社

中文要旨：本研究以八部日本现代都市剧为语言材料，从中收集 165 例拒绝表达的语例形成微型文本语料库，对日语中拒绝表达的实际状态进行了考察。本篇论文以委婉表达为切入点，运用语用学的理论对采集的数据做了归类和分析。最后，尝试挖掘了潜藏在语言背后的文化因素。

关键词：委婉表达 拒绝表达 语料库 语用学 文化因素